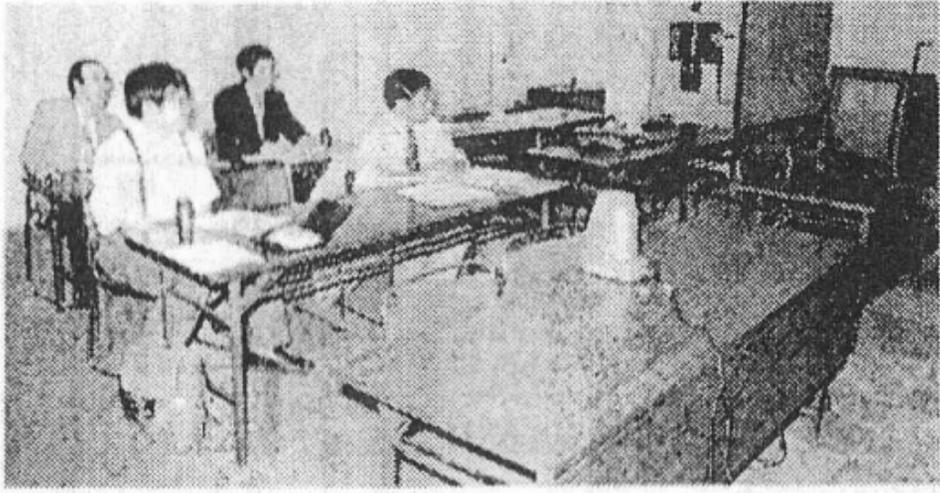


テレビ会議でAMDAが総会

岡山、東京、兵庫つなぎ

初の
救急医療の活用兼ね



国際医療NGOのAMDA(アジア医師連絡協議会)の今年度総会が21日、岡山市の本部、東京事務所、兵庫支部の3カ所をつないだテレビ会議で行われた。

1984年の正式発足から15年目の総会で、初の試み。国内の救急医療の際に活用できるかどうかのシミュレーションを兼ねて行われた。菅波茂代表が「AMDAでやっていくのは緊急救授と、フィリピン、ネパール、カンボジアを中心とした貧困地域での地域開発。国内では自治体と共同の防災訓練を中心に、地域防災ネットワークの構築を進めたい」と方針を説明した。

3カ所で約40人、兵庫支部の会場となった毎日新聞神戸ビル会議室には速利博・支部長ら約10人が参加し写真し、活発な質疑応答を繰り広げた。最後に菅波代表が「来年は15周年。AMDAに何ができ、何を求められているかが分かってくる。これまでは走りながらやってきたのを、もっと走る前に体制を整え、安定性を重視した運営にしていきたい」としめくくった。

毎日新聞